

報告日 令和7年7月31日

報告回次 2日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	上毛町			代表者名	0979-72-3111
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	DX推進班	連絡先電話番号	0979-72-3112
担当者役職	主事	担当者氏名	中 亮太郎	連絡先E-mail	
住所	871-0992 福岡県上毛町垂水1321番地1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	行政DX人材育成研修（実践スキル向上）		
概要	業務改善を行うための前提となる思考能力（論理的思考等）を養い、組織全体の効率化を実現することを目的とした研修を実施				
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	523	令和7年7月25日	支援・助言&講演	オンライン
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年7月18日	支援・助言&講演(オンライン)	14時00分	16時00分	
				活動時間（分）	120

2-2.

派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	藤井 靖史
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	参加者からの質問に対しても丁寧かつ的確に回答されており、理解を深めることができた。また、ご自身が自治体のCDO等を務めている経験をもとに、自治体での具体的な事例を交えて講義を進められたことで、参加者にとって非常に分かりやすい内容であった。 さらに、参加者の業務に関係するテーマや、たとえ話を交えた説明により、内容のイメージがしやすく、実践につながる学びを得ることができた。講義は一方的なものではなく、対話を通じて参加者の思考を引き出す工夫が随所に見られた。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	7人
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	7			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	業務改善や事業推進に必要なデータ分析が不十分であること。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	アドバイザーの派遣により、職員がデータに基づいて業務の実態や地域課題を客観的に把握し、論理的に改善策を導き出す力を養う。これにより、業務の質と効率を高めるだけでなく、住民の声や多様なニーズに対して、よりの確かつ迅速な対応が可能となる。さらに、学び続ける組織文化の醸成を通じて、職員一人ひとりが主体的に課題に向き合い、変化に強い行政組織へと進化することで、住民が安心して暮らせる持続可能な地域社会の実現を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)		・DX推進員向けの人材育成研修(第2回)の講師として登壇。 ・「学習文化の醸成と必要なスキルの変化」について講義。2050年に求められるスキルや、自律的に学び続ける組織づくりのポイントを解説。 ・DXを「健康診断」に例えて、現状把握と分析の重要性を解説。業務改善や施策立案において、いきなり手を打つのではなく、データに基づく診断と精密検査(分析)を経るべきという考え方を提示。西会津町などの事例も交えて解説。 ・具体的に役場の年齢構成などのデータを確認してどのようなことが課題として考えられるかを解説。 ・アンケート分析による組織課題の可視化事例などを通じて、実践的な気づきを促した。 ・質疑応答では参加者の業務や課題に即した問いに対し、具体的な自治体事例やたとえ話を交えて丁寧に回答。参加者の理解を深め、現場での応用を促す支援を行った。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)		・業務改善や施策立案において、「感覚」や「経験」ではなく「データ」に基づく判断の重要性について職員間で共通認識が形成された。 ・既存の統計情報やアンケート結果を組み合わせることで、表面的ではない真の課題を可視化し、多面的に捉える視点が生まれた。 ・「データはすでに身の回りにあるもの」という意識の転換が起き、日常業務の中で小さなデータでも活用していこうとする姿勢が見られるようになった。 ・DXの基盤として「学び続ける文化」が不可欠であるという認識を持つことができた。	
具体的な成果物		最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)		特に無し	
アンケートの内容と分析結果		講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(E X C E LやP D Fでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 本支援は全6回にわたる連続講座として実施しているため、各回終了時点でアンケートは実施していない。最終回終了後に総括的な受講者の理解度や変化を把握する予定。	
4-3. 今後の計画		最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
		月1回程度の定例ミーティングを開催し、以下の取組を効率的に進める。 (1)dx推進員レベルアップ連続講座(～10月予定)※一部、本アドバイザー派遣制度を活用 (2)研修で身につけたスキルを活かし業務改善を実践する(11月～3月)	
4-4. 事業の最終的な目指す姿		町が抱えるさまざまな行政課題の解決に向けて、論理的思考などの思考法を養い、職員一人ひとりが自ら業務改善に取り組み、組織全体の効率化を実現できるようになることを目指す。	
5.報告書についての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可			
掲載許可		☐ 掲載可	
なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください			
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子			
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。			
			